

## 小学校、中学校における教育について

お許しをいただきまして質疑をさせていただきます。市長並びに教育長の前向きで積極的な答弁を期待いたします。なお、昨日までの代表質問と一部重複する点がありますが、ご了承いただきたいと思います。まず最初に小学校、中学校における教育についてお尋ねいたします。私は25年前から、スポーツ少年団の指導者として活動しております。そして今までに数多くの子供たちと接する機会がありました。子供は小学校1、2年生のときに少年団に入団してきます。その頃の子供たちは純粋で、将来この子供たちの中から非行に走る者が出るなど想像もつきません。しかし、中学校に進学した頃から子供たちの行動に異変が起こり始めます。まず大人に対して無口になり、反抗するようになります。登校拒否や、万引きなどの問題を起こす子供も増加する時期でもあります。しかし、この時期を乗り越え、高校に進学すると今まで問題を起こしていた子供のほとんどは立ち直っていきます。中学校時代の一時期が人間の成長過程における最も精神的に不安定な時期であり、言い換えればもっとも大切な時期であります。この時期の指導は大変難しいのですが、問題行動をしている子供も小さいときから子供に接してきた地域の指導者の言うことはよく聞くものです。失礼かもしれませんが、教員の指導より効果がある場合がよくあります。しかし、現状は中学生になると地域社会の人たちと接する機会がだんだん少なくなります。部活は学校の先生の聖域であり、地域の指導者が立ち入ることが難しく、高校受験を控えているので、地域活動をする時間があれば勉強しなさいということになってしまいます。これからの教育は家庭、学校、地域が一体となって進めていかなければならないと言われ始めてからどれくらいの時間が過ぎたでしょうか。何ら前向きに取り組まれているように思われません。小学校のときから接してきた地域の人たちの教育力に期待するものは大きいと思います。また、子供たちが地域活動に参加する機会を積極的に作ることも大切であります。そして、自分たちの町を自分たちで作っていくという心を育てていかなければ、自分の権利だけを主張する大人になってしまいます。そこでお尋ねいたします。地域で活動する指導者の教育力についてどのように期待しているか教育長の御所見をお聞かせください。また、小学校、中学校の教育活動に地域の指導者をどのように活用するつもりかお聞かせください。また、子供を地域活動へ積極的に参加させる考えがあるのか、積極的に参加させるとすれば具体的にどのような活動が考えられるのかお示しいただくと共に、高校入試一辺倒の余裕のない中学校教育を改革する必要があると思いますが、教育長の考えをお聞かせください。

話は変わりますが、市内の小学校で子供たちが町づくりについて考える授業が行われているようです。子供のときから自分たちの住んでる社会について感心を持ち、自分たちの力で自分たちの町を作ることを教えるのは大切なことです。こういった考えは今の若者に欠けている点かもしれません。ある学校では「私たちの未来都市サポート高松」というテーマで町づくりについて研究したそうです。この活動を青年会議所の方々

が支えているそうですが、子供たちの考えをどのように市政に反映させるか苦慮しているそうです。そこでその一部をここで紹介したいと思います。サンポートに再生水を利用した、世界最大級の水族館を作りたい。ほたるなど生き物保護センターを含む自然保護ワールドを作りたい。少子高齢化社会に配慮した映画館やプラネタリウムを作りたい。ソーラーシステムを取り入れたサンポートドームがほしい。などです。また、他の学校では、川を生かした水辺の自然について考えたそうです。川辺に住む動物、植物とのふれあい、自然環境を大切にしたい気持ちがよく現れたプランになっています。歴史と水資料館を考えたグループもあります。水族館を考えたグループもありました。私はその中から水を大切にしたい、環境を大切にしたい気持ちを逆に子供たちから教えられたような気がしました。子供たちから出てきたアイデアは純粋なものばかりです。もちろん子供の考えですから高松市の切迫した財政状況を配慮したものではありませんし、現実とはかけ離れたものになっているかもしれません。しかし、子供たちの夢を軽視してはいけないのではないのでしょうか。大人が思いつかないような発想を子供はするものです。また、実現できるものは少しでも取り入れ、無理な場合も何らかの回答をすることが子供の夢を育て、将来、ふるさと高松を大切にしたい人間作りにつながると思います。子供の夢を育てる教育をぜひ教育環境の中で実践していただきたいものであります。そこでお伺いしますが、こういった提案を今後どのように生かしていくのか、実現できなくても子供たちに何らかの回答をしてやるのが子供のときから社会活動に参加する意欲を育てることになると思います。あわせてご所見をお聞かせいただきたいと思ます。

#### 情報処理システム開発について

次に情報処理システム開発についてお尋ねいたします。昨年度に引き続き公共施設利用総合システム(タカマツ・シティネット)に追加する経費が計上されております。仄聞するところによりますと、住民基本台帳法関係及び介護保険料の軽減措置に伴うシステム改造費などが含まれているようです。その内容をお示しいただきたいと思ます。

#### 防災データベースについて

次に防災データベースについてお尋ねいたします。昭和21年12月21日午前4時49分、紀伊半島潮岬南南西78kmの沖合(北緯33.0 東経135.6)を震源とするM.8.0の地震が発生しました。南海沖地震であります。その次のサイクルがそろそろ迫っているということもいわれています。災害は忘れた頃にやってくるものです。本市のホームページに「いざというときに備えて」という覧がありますが、そこには防災に関することは何も書かれていません。私は東京都文京区を訪問し、防災データベースについてお聞きすることができました。文京区では災害時の備えに万全を期すため、学校や公民館など災害時に避難する場所にある備蓄品や、市内に設置してある消火器、貯水槽の状況をデータベース化して管理しています。備蓄品のうち特に食品について

は賞味期限があり、消火器も有効期限があります。常に有効な備蓄品を管理するにはデータベース化をして管理するのがもっとも確実で容易な方法だと思います。そこでお尋ねいたします。現在本市が行っている災害時の備蓄品の現状と、管理方法、また今後の方策についてご所見をお聞かせください。本市では防災意識普及啓発用情報システムが計画されているようですが、防災計画は市民に公開し十分理解していただく必要があると考えます。同システムはどのようなものかお聞かせください。合わせて災害に備える市長の心構えをお示しいただきたいと思います。

#### ハッカー問題

次にハッカー問題についてお尋ねいたします。昨年6月20日朝日新聞社のインターネット情報サービスにハッカーが侵入し、トップページが書き換えられる事件がおきました。また、本年1月24日には科学技術庁のホームページが英文入りのメッセージに書き換えられるのを同庁職員が発見、その後、総務庁統計局、運輸省、沖縄郵政管理事務所にもハッカーが侵入したことが報道されたことは記憶に新しいところであります。ハッカーはサーバーと呼ばれる各種データを記憶した中枢コンピューターに対し、パスワードを解読して侵入し、データを持ち去ったり、書き換えたりします。ハッカーは世界中どこにいてもかわからず、インターネット網をくぐって侵入してくるのです。やっかいなハッカーではありますが、セキュリティー機能に配慮すれば侵入を恐れることはありません。無防備状態がもっとも危険なのです。本市のシステムも例外ではありません。本市ホームページにハッカーが侵入し、そこに記載されている内容を書き換える可能性も十分考えられます。また、住民のデータが盗まれるとプライバシーの保護の面からも心配です。市税のデータがハッカーにあえば大変なことになります。そこでお尋ねいたします。情報処理システムネットワークは大丈夫でしょうか、住民のデータや市税のデータなどの市民のプライバシー保護、消防や防災システムへの影響、はないのでしょうか。また、本市のホームページへのハッカーの侵入の可能性について、市長はどのように認識しておられるかお答えください。またハッカー発生の報道後システムのチェックをされたでしょうか。チェック内容をお聞かせいただきたいと思っております。

#### 学校施設開放事業でのパソコン教室の開放について

次に学校施設開放事業でのパソコン教室の開放についてお尋ねいたします。学校施設の開放事業については同志会代表質問でもいたしました。現在学校施設は学校の運営に支障のない範囲内で市民に開放されています。そのほとんどは体育館、運動場などの体育施設であり、各校区に設置された学校施設開放運営委員会などが管理運営を行っています。運動施設以外の施設の開放についても何校かで実施されているとお聞きしておりますが、児童数の減少による余裕教室の増加、自由時間の増大による市民ニーズが拡大している現在、ますます施設開放について考慮していく必要があると思っております。先日、公民館の運営協議会に参加したとき、公民館講座などでパ

ソコン教室の需要が今、最も高まっていると聞きました。しかし、公民館は施設がないため教室が開設できない。業者にたのんでも貸してもらえないという意見がありました。そこで小学校のパソコン教室の開放について配慮してはと思いますがいかがでしょうか。セキュリティー問題はソフト的に可能だと思います。ご所見をお聞かせください。

#### 全国レクリエーション大会について

次に全国レクリエーション大会についてお尋ねいたします。週休二日制の定着や学校週五日制の完全実施を間近に控え、ますます余暇時間が増大しようとしている中で、自由時間の有効活用が大切になることは言うまでもありません。そんな中、いつでも、どこでも誰でもできるレクリエーション大会が来る平成 13 年秋に本市に於いて開催されることになっております。全国から多くの方々が本市を訪れることになっており、本市観光 PR の絶好のチャンスでもあります。開催について、どのような種目が予定されているのか、大会の準備状況やレクリエーション協会などとの連携はどうなっているのかお聞かせいただくとともに、本大会に対する市長の所見をお聞かせください。

#### 地域高規格道路の整備について

次に地域高規格道路の整備についてお尋ねいたします。あす 3 月 11 日四国縦貫自動車道のうち井川池田インターチェンジから川之江東ジャンクションまでが開通し四国の県都はすべて高速道路で結ばれることとなります。一方、本市が待ち望んでいる高松西インターチェンジ以東も、ここ 1 年から数年のうちには開通するめどが立ったようがあります。そういった中、昨年 12 月 17 日建設省は自動車専用道と同程度の機能を持つ地域高規格道路の「調査区間」として、高松市の郊外をつなぐ「高松環状道路」(約 40 キロ)のうち、国道 11 号からサンポート高松間約 8 キロを新たに指定しました。今後は、ルート選定や環境影響評価手続きに必要な調査を行うとお聞きしております。地域高規格道路は高規格幹線道路(いわゆる高速道路)と連携して地域集積圏相互の交流促進、交通拠点の連携を図ることを最大の使命として 4 車線以上で、最高速度 60 キロから 80 キロで設計されます。現在、高松西 IC から県道岡本香川線までは整備区間としてまた、高松空港道路は調査区間として計画が進行していますが、このたび先に述べた 8 キロ区間が加わったわけです。この路線が計画されている区域の住民は平面になるのか、高松西インターチェンジ以南と同じような二階建て構造になるのか、どこを通るのかなど大変に気になるところです。また、この道路は市街化区域内を走る道路であり、現在の交通体系にも多大な影響があるし、生活環境への影響も考えられます。そこでお尋ねしますが、今後どのようなことを念頭に入れ調査していくのかお示しいただきたいと思えます。また、今後の整備スケジュールについてお聞かせください。あわせて現在整備区間の高松空港連絡道路及び高松環状道路の内、整備区間の進捗状況もお聞かせください。

#### 観光客の誘致について

次に観光客の誘致についてお尋ねいたします。私も含め議会があるごとに本市の観

光の危機が指摘されているのは市長もご承知のとおりであります。しかし、本市の観光を甦らせる妙案、カンフル材は見当たりません。すでにオープンした鬼の博物館もこれから計画しているインフォメーションプラザ(仮称)も集客能力のある施設ではないと思います。私は市民も観光客も、誰もが集い、楽しめるような施設が、いわゆる賑わいのある施設が必要だと思います。そこで私と数名の議員で先日シンガポールを訪問することができましたので、そのときに見たこと感じたことを紹介させていただき、本市の観光行政の参考にさせていただくと同時に、市長のご所見をいただければと思います。まず、一番驚きだったのは訪問旅費の安さであります。シンガポールまでは片道 6 時間の長距離であり、旅費だけでも相当の高額になり、今回宿泊したホテルは 4 つ星クラスの良いホテルでしたし、食事もセットされているにもかかわらず、東京一泊二日並みの旅費でした。どういうシステムになっているのか理解に苦しむところです。しかし、行ってみて何となくこの仕組みがわかったような気がしています。今の観光客の誘致はまず人を呼び込むことから始まるのです。安い運賃と安い宿泊費で人を呼び込み、来た観光客は、運賃、宿泊費以外にショッピングやオープンツアーにお金を使う仕組みになっています。トータルすると町は潤っているのです。シンガポールの町は美しい町で、経済都市でありながら、観光の町であります。日本からの観光客も多く、特に若者が目立ちました。また、クラークキーという施設があり、屋台の村に山のような人が楽しそうに杯を傾けていました。また、私たちが宿泊したホテルの隣には日本の企業が経営するショッピングセンターがあり、地下には日本料理も含め世界中の食べ物を集めた、モールがあります。ここもたくさんの方が食事を楽しんでいました。どちらも共通して言えるのは、値段が安いことです。そして世界の食べ物が集まっているのが魅力でしょうか。魅力的な施設を作ることも大切ですが、いかにすれば人が集まってくるのかを考えるべきです。私は本市のサンポート高松の計画に非常に参考になると思います。実際、国内有数の観光エリアである北海道や九州、沖縄の旅行費用は格別に安くなっています。市長は本市の観光行政についてどのように進めていこうとしているのでしょうかお聞かせください。また、サンポート高松にどのような手法で賑わいを持たせるつもりかもお聞かせください。市長、一度シンガポールを訪問してみたいかがですか。海外を見ることも本市の舵取り役の市長には大切なことと思います。

話は変わりますが、連日ニュースで報じられているように、高知や宮崎などプロ野球球団がキャンプを張っている町は大賑わいです。毎日 5 万人以上の見物客が駆けつけている球団もあります。私は過去何回かキャンプや合宿の誘致をしてはと提案してきました。5 万人の人が 10 日間来れば、本市へ年間に訪れる観光客に近い数字になってしまいます。訪れた観光客は運輸、宿泊、飲食などあらゆる企業を潤してくれることでしょう。幸いにして本市には球界に太いパイプもあるのではないのでしょうか。市長本気で取り組んでみてください。市民には夢も必要なのです。市長のご所見をお聞かせください。以上で私の質疑を終わります。ご静聴有難うございました。